

令和4年9月22日  
長崎県立松浦高等学校  
長崎大学教育学部 井手研究室  
(学習社会学/河川教育)  
長崎地方気象台

## 高校新学習指導要領の「探究的な学び」を支援

### ～気象台から松浦高校へ、オンライン授業を実施～

9月26日（月）14時10分から14時55分の時間で、全国初の新しい普通科「地域科学科」を設置し、全国的に注目を集めている長崎県立松浦高等学校の1・2年生を対象に、長崎地方気象台から松浦高校に向けて、オンライン環境を活用した気候変動と防災気象情報に関する授業を実施します。

長崎地方気象台と長崎大学教育学部井手弘人研究室では協働して、地域の気象防災情報の意味を理解し、実際の避難行動へと結びつけるとともに、地域防災の次世代の担い手（「次世代防災リーダー」）を育成するための学習プログラム開発を推進しています。

#### ■高等学校 新学習指導要領の「探究的な学び」を支援

##### 気象台から松浦高校へ、「地理総合」を通したオンライン授業

松浦高校は令和2年度から文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）」の委託事業の指定を受け、地域課題解決型学習「まっナビ・プロジェクト（MNP）」の活動内容の充実を図っています。また、今年度より、新たに文部科学省委託事業「新時代に対応した高等学校教育改革推進事業（普通科改革支援事業）」の指定を受けました。

さらに、今春から「新しい普通科」として、『地域科学科』が設置され、その一環として、MNP以外の教科の授業の充実と改善も同時に展開しています。

今回のオンライン授業は、先日の台風第14号はじめ、松浦に焦点をあてたタイムリーな気象情報と気候変動との関連等を直接長崎地方気象台から発信し、身近な事例がグローバルな課題と関連していることについて、新学習指導要領で全員必修科目となった「地理総合」（1年生）の授業を通した学習を行います。

特に「松浦」を事例として、地域防災や地球温暖化問題について考え、生徒自らの行動に向けた意識向上を、教科での学びを通して図ります。

## ■ 「リスクコミュニケーション」を通じた気象台の地域防災への積極的な参画

長崎地方気象台では、近年の激甚化・頻発化する豪雨災害や気候変動に伴う大規模災害のリスクに対して、「自らの命は自ら守る」社会の実現を支援するため地域全体の気象防災力向上の取組みを推進しています。この一環として、幅広い分野に対して「リスクコミュニケーション」の機会を持ち、情報の受け手側との対話を通じて情報発信の改善や防災意識向上に努めています。この度、高校生を中心とした未来を生きる次世代に、若い時期から防災気象情報の読み解く力を身に着け、的確な判断により避難行動へと結びつけるように授業を行うものです。

新しい学力の考え方に基づく、学校と地域との協働的な学びや教科横断的な学びの実践を支援して、長崎大学教育学部井手研究室では、総合的な学習や探究に関する授業の研究開発に取り組んでいます。学校の中に閉じない、子どもたちが「参画する」学びが、単純な体験をこえて、行動を通して学力と直結していく教育課程と授業実践を進める一環として、長崎地方気象台と松浦高校との学びの機会を投げかけ、今回実現に至りました。

- この件に関するお問い合わせ先

- 授業の趣旨に関すること

長崎県立松浦高等学校

教諭 茶園 孝一（ちゃえん こういち）

0956-72-0141（学校代表電話）

- 当日の授業内容・リスクコミュニケーションに関すること

長崎地方気象台

リスクコミュニケーション推進官 平田 勝貴（ひらた かつき）

095-811-4862

- 高校普通科改革・新学習指導要領に関すること

長崎大学教育学部 井手研究室

准教授 井手 弘人（いで ひろと）

E-mail : hirotoi@nagasaki-u.ac.jp